

筑波大学アート・コレクション 石井コレクション特集展示

紙上の至高なるもの. 第2章—清宮質文+駒井哲郎



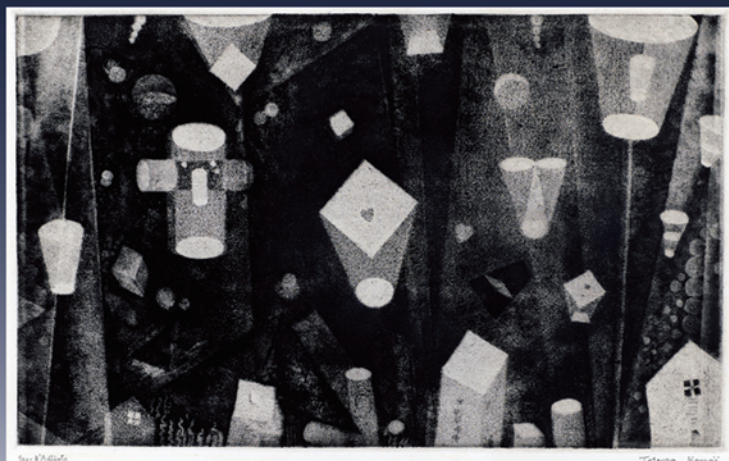
清宮質文《野》1958年
モノタイプ 29.7×28.4 cm



清宮質文《山上の魚》1981年
木版 14.4×26.1 cm



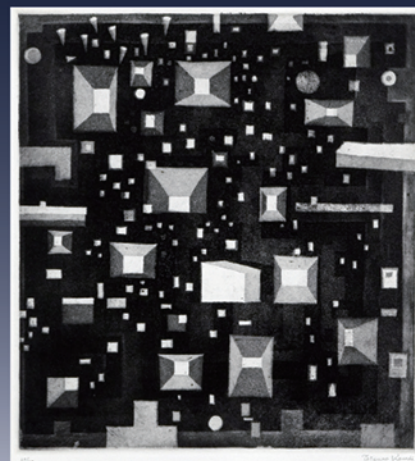
清宮質文《黑夜の鳥》1982年
木版 14.0×17.5 cm



駒井哲郎《東の間の幻影》1951年
サンドペーパーによるエッチング 17.4×28.2 cm
© Yoshiko Komai 2019/ JAA1900091



駒井哲郎《黄色い家》1960年
ディープエッチ・アクアチント
20.7×14.6 cm
© Yoshiko Komai 2019/ JAA1900091



駒井哲郎《時間の迷路》1952年
サンドペーパーによるエッチング・アクアチント
23.2×21.2 cm
© Yoshiko Komai 2019/ JAA1900091

筑波大学芸術系が管理する600点超の筑波大学アート・コレクション(UTAC=University of Tsukuba Art Collection)の中核をなす「石井コレクション」は、株式会社図書館流通センター代表取締役、石井昭氏より寄贈された近世・近代陶磁と近代絵画、約200点からなります。

2005年から2010年に筑波大学が受贈した石井コレクションは、大学会館内の筑波大学ギャラリーにおける常設展示のほか、同じ建物内にあるアートスペースでの特集展示や、国内外のミュージアムが企画するさまざまな展覧会への出品要請に応えることをとおして、その質の高さをひろく示してきました。

また筑波大学芸術系では、このすぐれたコレクションを芸術的学術

資源ととらえ、それをもとにした研究教育事業として研究会やワークショップなどを企画開催してきました。一連の成果は叢書「石井コレクション研究」にまとめられ、今年度は7冊目が刊行される予定です。

今回の展覧会は、2013年の特集展示「紙上の至高なるもの」の後を継ぐ企画です。静謐な詩的世界を表現した二人の版画家、清宮質文と駒井哲郎による石井コレクションの作品に加え、筑波大学で版画制作研究に取り組む田島直樹と佐野広章の作品も展示することで、版表現の豊かな創造性と造形の至高性を明らかにします。さらに、会期中の関連企画では、美術史と版画制作研究の視座により、清宮と駒井の表現世界の核心に迫ります。

関連企画

レクチャー&トーク・セッション「清宮質文+駒井哲郎—版の静寂^{しじま}」
6月22日(土) 午後1時30分-午後4時 筑波大学 大学会館 アートスペース
レクチャー&パネリスト

栗田秀法 名古屋大学教授・美術史 / 田島直樹 筑波大学教授・銅版画制作 / 佐野広章 桐生大学短期大学部准教授[筑波大学大学院博士後期過程在籍中]・木版画制作
モデレーター 寺門臨太郎 筑波大学准教授・美術史

事前申し込み不要 / どなたでも参加できます

お問い合わせ 筑波大学芸術系社会貢献推進室 sct@geijutsu.tsukuba.ac.jp